

日本都市学会第 66 回大会

プログラム

テーマ：地方中枢都市の課題と展望

2019 年 10 月 25 日(金)～27 日(日)

会 場：広島 JMS アステールプラザ



主 催：日本都市学会・中四国都市学会

後 援：広島市

日本都市学会第 66 回大会プログラム

1. スケジュール

【10月25日(金)】

12:30～ エクスカーション

テーマ:「広島駅周辺の再開発」

スケジュール:(集合) 広島駅北口(新幹線口)～(徒歩)エキキタ地区～広島駅南口再開発地区(A～C ブロック)～マツダスタジアム(可能であれば内部見学)～(一次解散):(以下希望者)～(徒歩・路面電車)広島市中心部(進行するオフィスビルの建て替え)～(徒歩)袋町小学校平和資料館(解散)

集合場所:12時30分 広島駅北口(新幹線口)2階 総合案内所前

予定時間:2時間半程度(一次解散まで)

案内者 :川瀬正樹(広島修道大学)

定員:30名。定員を超えた場合は申込順とします。

参加費:「マツダスタジアム」を見学できる場合の見学料(1人1,000円、消費税増税による値上げの可能性
があります。)

※マツダスタジアムが見学できるかどうかは、未確定です。

※参加費は当日徴収します。一次解散後、路面電車に乗る際には、各自で運賃をお支払いください。

18:00～ 理事会

会場:広島市文化交流会館 2階 プロヴァンス

〒730-8787 広島県広島市中区加古町 3-3 TEL:082-243-8881(代表)

【10月26日(土)】会場:広島 JMS アステールプラザ(総合受付:2階中ホール前エントランスホール)

9:00～ 受付開始

研究発表会参加費:3,000円(参加費1,000円、資料・要旨集代2,000円)、懇親会費:5,000円

9:30～ 研究発表 I (大会議室 A・B、中会議室、美術工芸室、工作実習室)

13:00～ シンポジウム テーマ「地方中枢都市の課題と展望」(中ホール)

13:00 開会挨拶 浦野 正樹(日本都市学会会長)

由井 義通(中四国都市学会会長)

13:10 基調講演 岡村 清治(広島市副市長)「広島駅周辺の再開発」

13:40～15:20 パネルディスカッション

趣旨説明 : 由井 義通(中四国都市学会会長)

パネリスト : 日野 正輝(中国学園大学)

宮本 茂(公益財団法人中国地域創造研究センター)

阿部 和俊(愛知教育大学名誉教授)

コメンテーター:寺谷 亮司(愛媛大学)

コーディネーター:平 篤志(香川大学)

15:30～ 日本都市学会賞授賞式

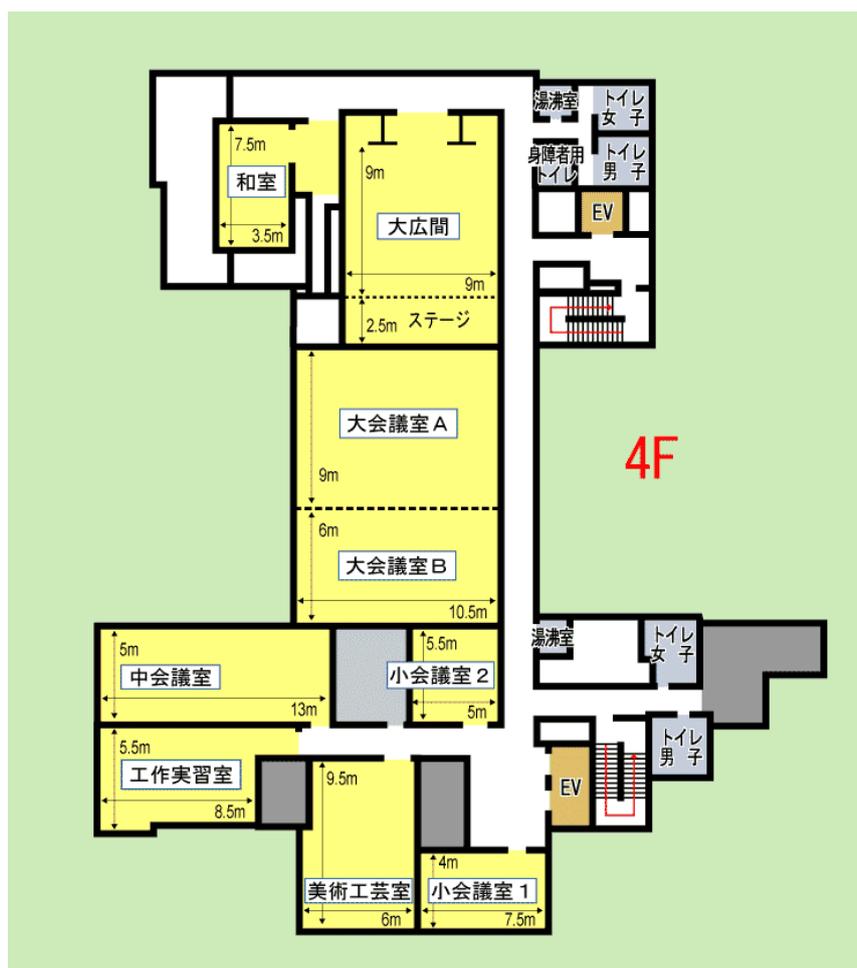
15:50～ 日本都市学会総会（16:50まで）

18:00～ 懇親会（会場：広島市文化交流会館 2階 ルミエール）

【10月27日（日）】会場：広島 JMS アステールプラザ

9:15～ 受付開始（4階 小会議室2）

9:30～ 研究発表Ⅱ（4階 大会議室A・B、中会議室、美術工芸室）



※26日（土）の大会受付は、アステールプラザ広島の玄関から階段を上がって2階の一番奥右手の中ホール前のエントランスホールです。

受付をおすましの上、エレベータで4階の研究発表会場へ移動してください。

※27日（日）の大会受付は、アステールプラザ広島の4階 小会議室2です。

地方中枢都市の課題と展望

日本都市学会会長 浦野正樹

中四国都市学会会長 由井義通

少子高齢化の進行が加速化する中で、東京一極集中はますます進み、また、三大都市圏をはじめとする大都市圏と非大都市圏の格差も開いている。2014年に日本創生会議人口減少問題検討分科会が出した増田レポートによると、少子化の進行に伴う人口減少によって、存続が困難になると予測されている自治体について、国勢調査を基にした推計から2040年までに全国約1800市町村のうち約半数(896市町村)が消滅する恐れがあるとされた。増田レポートでは、2040年時点に出産可能年齢の95%にあたる若年女性人口(20~39歳)が半減する自治体を「消滅可能性都市」と見なしており、非大都市圏内の青森・岩手・秋田・山形・島根の5県は8割以上の市町村が該当するだけでなく、大都市圏内においても若年女性の少ない、東京都豊島区や大阪市中央区なども「消滅可能性都市」にリストアップされている。

このようなドラスティックな人口転換期において、都市はこれまでの成長都市モデルからの脱却を考慮する時期にあるといえる。企業誘致や大学などを誘致して、雇用機会や就学機会を提供することによって、非大都市圏からの人口を吸収したり、大都市圏間の人口移動によって人口増加を支えてきた時代は永久に継続するものではない。長期的な経済の停滞期にあつて新たな雇用を創出することは容易ではない。人口減少の激しい地方都市だけではなく、これまで成長し続けていた大都市圏においても、高齢化に伴う郊外地域の空き家の大量発生が問題となっており、ベビーブーム後の出生率激減期に生まれたベビーバスター世代は、親の高齢化と私生活重視の自分自身のライフスタイルの間で、新たな行動様式をとるようになってきている。

さらに、リーマンショック後の経済の再編や平成の大合併、あるいは様々な側面でのグローバル化の進行という過去経験したことのないような社会の変動の中で、新たにサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を目指したSociety5.0が提示されている。これらの大きな状況変化の中で、これまで大都市圏の補完機能として地方経済を支え、大都市圏と非大都市圏のつなぎ役や、地方分権の受け皿的な役割を期待される地方中枢都市の役割や位置づけも大きく変化することが予想される。地方中枢都市はどのような課題を抱え、それらをどのように克服していくのか、大都市圏とは違った今後の地方中枢都市の在り方について検討することが必要である。例えば、地方の中心としての機能の態様だけでなく、国境を越えた諸外国とのネットワークの有無も検討する必要がある。以上の特徴を考慮しつつ今大会のテーマ「地方中枢都市の課題と展望」について、全国から多くの研究者の参加を得て、創見に富んだ発表と活発な議論を通して、我が国の国土構造の機軸を担う地方中枢都市が抱える課題や今後の展望について闊達な議論が展開されることを期待する。

2. 研究発表

発表者へのお願い

①発表時間と方法

発表時間は質疑応答や交代時間を含め「20分」です。

1 鈴 10分、2 鈴 15分、進行は司会者の指示に従ってください。

②発表時の使用機器について

各会場にはプロジェクターとノートパソコン(Windows10)を用意しています。

パワーポイントの操作はご自身でお願いします。

③発表の準備と打ち合わせ

発表用のパワーポイントのファイルはセッション開始 10 分前までに、各会場のパソコンにコピーしておくよう、お願いいたします。

なお、ファイルは必ず **PowerPoint2016** 以前の形式で保存し、USB メモリにてご持参ください。インターネット環境はございません。

※会場の端子に HDMI 未対応の場所がありますので、可能な限り USB メモリにてデータをご持参ください。

④当日の配布資料

必要に応じてご自身でご準備ください(第1会場、第2会場、第3会場は 50 部、第4会場、第5会場は 30 部)。

なお、会場でのコピーはできません。

10月26日(土)9:30~11:30

第1会場(大会議室A):コミュニティ・地域活性化

11-1	五十嵐泰正(筑波大学)	繁華街における流動性とコミュニティ
11-2	平井太郎(弘前大学)	コミュニティ不毛の地に生まれたコミュニティ
11-3	中谷年成(大阪府立大学工業高等専門学校)	健康寿命に影響を与えるコミュニティ・住環境の要因分析
11-4	田中晃代(近畿大学)	市街化調整区域における地域活性のあり方に関する考察
11-5	藤本浩由(福山大学)	企業による地域スポーツ大会スポンサー活動の地域活性化への利用可能性—SDGsを中心に—
11-6	畑 正夫(兵庫県立大学)	地域資源を活用した地域づくりとSDGsの接点の探求;いなみ野ため池ミュージアムを事例に

第2会場(大会議室B):まちづくり・都市整備

12-1	寺町賢一・吉武哲信(九州工業大学)	屋外設置物を考慮した落書き行為可能性指数の推定—北九州市小倉都心を対象として—
12-2	杉谷真理子(松江工業高等専門学校)	城下町における住宅景観:景観形成とまちづくりの視点から

12-3	大島祥子(スーク創生事務所)	ストック活用型社会に向けた不動産事業者の役割に関する研究
12-4	冨田貢司(東海大学)	密集市街地における整備事業後の課題に関する考察
12-5	川端博之(大阪市立大学・院)	ニュータウンの再生に向けた取組みの違いについて -千里・高蔵寺・多摩ニュータウンを事例に-
12-6	木本浩一(関西学院大学)	西南戦争における戦災復興事業-熊本の場合-

第3会場(中会議室):観光・ツーリズム

13-1	三井 栄(岐阜大学)	乗鞍スカイラインサイクリングの魅力と持続可能な観光のあり方
13-2	村田和繁(大阪市立大学・院)	都市近郊の里山に囲まれた古民家やお遍路の宿等を利用したライフスタイル改善型の特徴を持った健康ツーリズムとしてのファースティングツーリズム -日常生活に組み込まれるツーリズム-
13-3	中鉢令兒(北海商科大学・非)	東南アジア観光と融合化
13-4	大谷尚之(愛媛大学)	地域ブランディングの視座からみた「餃子のまち」宇都宮
13-5	泉澤圭亮・中鉢令兒(元北海商科大学商学部)	ネットワーク分析を活用した観光まちづくりの科学的方法論の形成に関する研究 -石川県金沢市を事例として-
13-6	吉本 勇(就実大学)	姫路市における産業観光の形態

第4会場(美術工芸室):行政・自治

14-1	藤媛媛(大阪商業大学)	東京圏在住者の移住意識の規定要因
14-2	山中雄次(静岡県立大学・院)・金川幸司(静岡県立大学)	自治体における NPM 手法を背景とした“協働”の概念に関する研究
14-3	安藤克美(山梨県庁)・外川伸一(山梨学院大学)	森林環境税の問題点と今後の展望
14-4	外川伸一(山梨学院大学)・安藤克美(山梨県庁)	連携中枢都市圏の再批判
14-5	金川幸司(静岡県立大学)・山中雄次(静岡大学・院)	地域づくり組織の現代化とその動態的分析 -都市内分権組織を事例として-
14-6	久 隆浩(近畿大学)	新たな地域自治組織の組織運営のあり方に関する考察

第5会場(工作実習室):都市政策・まちづくり

15-1	金子 憲(首都大学東京)	日本の住宅政策に関する理論的・実証的研究
15-2	小川雅司(大阪産業大学)	歴史的人物を活用した地域価値創造に関する一考察
15-3	伊藤 悟・岡本莉生(金沢大学)	地域情報提供のためのAR利用ーその類型化による考察ー
15-4	大塚彩美(早稲田大学)	持続可能なまちづくりとしてのスマートシティの可能性と課題ー住民の意識と役割に着目してー
15-5	酒井高正(奈良大学)	小地域統計からみる関西学研都市地域の成長
15-6	石田修二(皇學館大学・非)	まちづくり教育におけるシミュレーションゲームの活用

10月27日(日)9:30~

第1会場(大会議室A):福祉・地域活性化

21-1	阿部智恵子(石川県立看護大学)	父親の育児についての研究
21-2	石原 肇(大阪産業大学)	社会福祉協議会と生活協同組合との連携による移動販売ー大阪府泉大津市の事例ー
21-3	能島裕介(兵庫県立大学・院)	生活困窮者自立支援法に基づく学習・生活支援事業の実施状況から見た同事業の課題と展望
21-4	増田金重(リサーチプランナーズ)	障害者教育におけるノーマライゼーションの研究ー中学校障害者学級の場合ー
21-5	森村繁晴(大東文化大学 非)	公立小学校に対する母親の評価と居住満足度
21-6	手代木航(東海大学・院)	地域活性化に寄与する道の駅の整備のあり方について
21-7	若林芳樹・Bochra BETTAIEB(首都大学東京)	外国人旅行者のための都市の公共サインの現状と課題ー東京都心部の事例ー
21-8	中原逸郎(楓錦会)	博覧会の成果ー西陣におけるジャガード技術導入を中心にー
21-9	林 上(中部大学)	ゲートウェイ・中心地概念のグローバル・サプライチェーンへの応用
21-10	奥野聡子(大阪市立大学・院)	奈良市ならまち地区におけるツーリズムジェントリフィケーションの影響

第2会場(大会議室B):地方都市・海外都市・地域活性化

22-1	久保隆行(立命館アジア太平洋大学)	日本の地方中枢都市・福岡の国際競争力ー世界の地方中枢都市との4年間の比較検証をもとにー
22-2	肖栄(佐賀大学)	伝統資源と観光の融合によるまちづくりー佐賀有田町における取り組みー
22-3	池田千恵子(大阪成蹊大学)	観光需要の拡大に伴う地域の変容ー石川県金沢市ひがし茶屋街を中心にー
22-4	中島紀世生・増田聡・中村哲也(東北大学)	地域づくりへの参画とその関心度ー大崎市岩出山地域における住民アンケートからの接近ー
22-5	松林康博(名古屋経済大学)・三井栄(岐阜大学)	高等学校と外部組織による地域協働体制のあり方ーエンリッチプロジェクトを事例にー
22-6	渡部 薫(熊本大学)	英国における都市規模の文化プロジェクトと都市再生
22-7	藤塚吉浩(大阪市立大学)・金容珉(ソウル市役所)	ソウル市北村におけるツーリズムジェントリフィケーション
22-8	大場茂明(大阪市立大学)	再都市化の進行にともなう地区居住施策の動向ーハンブルク・アルトナ行政区を事例としてー
22-9	川田 力(岡山大学)	ウィーン市における持続可能な都市マネジメント

第3会場(中会議室):地域経済・産業・就業

23-1	羽瀨貴司・宇都宮浩司(神戸国際大学)	地域密着型小売戦略
23-2	牛場 智(静岡大学)	姉妹都市交流を活用した地域マーケティングーサイズオカ×カンヌウィークを事例にー
23-3	杉本直子(京都府立大学・院)	飲食店の出店傾向からみる観光の経済効果の研究ー経営指標の変化と立地動向に着目してー
23-4	松嶋慶祐(公益財団法人九州経済調査協会)・三井 栄(岐阜大学)	九州地域における景気動向の把握ー都道府県別 CI による検証ー
23-5	米本 清(高崎経済大学)	時間貸駐車場の料金と地価・通行量ー群馬県高崎市の中心市街地を事例としてー
23-6	中村由美(福岡アジア都市研究所)	福岡市における女性人材活用と多様な働き方ーテレワークを事例にー
23-7	佟亜斎娜(広島大学・客員)	日本における介護労働者に関する政策と受け入れ

23-8	西野淑美(東洋大学)	福井市内高校卒業後の女性の地域移動―世代による経験の変化―
23-9	佐々木雅夫(弘前大学・院)	ワーカーズコープと地域に密着した新規事業が組み合わされる意義
23-10	松村茂(東北芸術工科大学)	テレワーク社会と地域社会

第4会場(美術工芸室):防災

24-1	福田祐子(岩手大学・院)	地域住民が担う避難所の感染症対策の課題―東日本大震災避難所運営検証調査から―
24-2	山田修司(東北大学)	情報を通じた防災の身体性について
24-3	宮定章(認定NPO法人 まち・コミュニケーション)	住商工混在地における建物用途の変容―阪神・淡路大震災から25年の神戸市長田区御蔵通を事例として―
24-4	増田 聡(東北大学)・手島浩之(日本建築家協会東北支部)	震災復興活動の市民参加型モニタリングと政策評価・提言:東日本大震災後の復興シンポジウム「みやぎボイス」の経験から
24-5	松本行真(近畿大学)	平時・有事におけるコミュニティ放送局の役割と課題―北海道胆振東部地震を事例に―
24-6	野坂 真(早稲田大学)	東日本大震災からの長期的な復興課題の変容過程―岩手県大槌町における住民層と地域集団ごとの活動の変遷より―
24-7	麦倉 哲(岩手大学)	災害犠牲死から何を教訓として伝承するのか

司会一覧

	発表番号	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
10月26日	1~3	熊田	森	石田	松村	大矢根
	4~6	西野	佐藤	山崎	川瀬	浅見
10月27日	1~3	佐野	石川	大塚	増田	
	4~6	由井	川田	酒井	外井	
	7~	寺谷	山下	平	浦野	

3. 会場までのアクセス



最寄駅までのアクセス

大会会場の最寄駅はJR 広島駅になります。最寄駅から会場までのアクセスは、以下の経路を参考にしてください。

市内電車

- ・広島港行(紙屋町経由)ー市役所前下車(約 8 分)
- ・江波行ー舟入町下車(約 5 分)

バス

- ・広島バス 24 号路線 吉島営業所行または吉島病院行ー加古町下車(約 3 分) **※推奨**

飛行機

- ・広島空港 リムジンバスで JR 広島駅新幹線口まで約 45 分

タクシー利用の場合

- ・JR 広島駅から 約 15 分
- * 詳しくは、JMS アステールプラザのホームページをご参照ください。

4. エクスカーション集合場所(10月25日(金) 12:30



集合時間: 12 時 30 分

集合場所: 広島駅北口(新幹線口)2階総合案内所前(ペDESTリアンデッキ側, 上図中の★印の位置)

参加費: 「マツダスタジアム」を見学できる場合の見学料(1 人 1,000 円, 消費税増税による値上げの可能性あり) ※参加費は当日徴収します。

5. 理事会(10 月 25 日(金) 18:00~)

会場: 広島市文化交流会館 2 階 プロヴァンス

〒730-8787 広島県広島市中区加古町 3-3 TEL:082-243-8881(代表)

6. 宿泊案内

広島市内の宿泊施設については、野球の試合等のイベントのために残り少なくなっております。広島市内で予約できなかった場合は、東広島市内や呉市内などの近隣市町の宿泊施設をご利用ください。宿泊については各自で早めに予約をお願いします。

7. 大会に関する問い合わせ先

〒680-8551 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学地域学部 山下博樹

中四国都市学会事務局

TEL:0857-31-5089(山下研究室) メール:yamasita@tottori-u.ac.jp

※ 問い合わせは出来るだけメールでお願いいたします。